

平成 20 年度 JAXA 学校宇宙連詩への取り組みの報告  
 連携機関（日本プラネタリウム協議会会員）からの報告

館名	平塚市博物館	館長名	明石 新
所在地住所	〒254-0041	神奈川県平塚市浅間町 12 番地 41 号	
	http://www.hirahaku.jp		
連絡先	Tel:0463-33-5111	Fax:0463-31-3949	
	e-mail:		
目的	JAXA と協力し、宇宙連詩編纂を希望する当地の学校を支援、地域における天文教育に貢献する。		
目標	活動目標 1：宇宙連詩の意義を理解し意欲のある学校を求める 活動目標 2：参加校の事情に応じ制作段階でのきめ細かな支援を行う 活動目標 3：希望によって発表会等に会場を提供する		
<b>具体的な取り組み内容</b>			
時期	取組内容		
準備段階 7～8月	見学に来館した県立平塚盲学校に後日参加を打診し、前向きな返事をいただいた。枠組みや段取りについて相談した。		
導入段階 9～10月	県立平塚盲学校小学部教諭らと会い制作の可否を含め検討した。学校の事情や条件をうかがった上で、10月16日に当館職員が JAXA 職員とともに同校を訪問し、具体的な方法の検討をまじえた説明を行なった。生徒への配慮から、制作方法・参加方法は柔軟に対応いただけるよう JAXA にはお願いし、快く了承をいただいた。同校と同校の教育相談に通学する児童、さらに同校の誘いを受けた聖ステパノ学園の共同による参加の意思表示があり、当館で JAXA 宛ての参加申込を仲介した。		
実施段階 10～11月	盲学校児童らに有効なプラネタリウム学習方法を先生方と検討、操作解説法についても意見を仰いだ。同校の見学に備え独自投影プログラムを開発した。10月30日、盲学校・ステパノ学園児童らがプラネタリウム見学を実施した。後、連詩制作を踏まえて感想文に応答した。		
完成段階 12～2月	作品を完成させた学校から、JAXA へのデータの受け渡しを実施した。盲学校、合同発表会をプラネタリウム室で実施した。発表の後 JAXA の協力でレクチャを実施し、児童たちの宇宙への関心を高めた。		
<b>社会との繋がり</b>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 博物館での合同発表会では、地元メディア（新聞、ミニコミ）が取材し、模様が大きく報道された。</li> <li>2. 博物館展示室内で、作品とその点字パネル、学習プロセスで使用した教材を1ヶ月間展示し、一般来館者に対して取組みをPRした。</li> </ol>			

平成 20 年度 JAXA 学校宇宙連詩への取り組みの報告  
協力機関担当者からの報告

平塚盲学校の子どもたちとの宇宙連詩制作

平塚市博物館  
学芸員 澤村泰彦

天文知識の普及、教育に関して、ビジュアル面での進化はまさに日進月歩の勢いがあります。しかし、視覚に障がいを持つ児童生徒らにとっては、それはどのような意味を持つのでしょうか。

平塚盲学校に宇宙連詩参加を打診したのは、たまたま見学に来館した生徒たちの姿に、宇宙知識への強い渴望を感じたことがきっかけでした。視覚ではなく言葉によって宇宙へのイメージを膨らませる本取組みは、彼らに打ってつけの手段と思いました。実際に大きな効果があったことを先生から報告いただき、いま静かな喜びをかみしめています。

ただし、その道のりは決して当初の想定どおりのものではありませんでした。

プラネタリウム学習に備え、弱視の生徒を意識したポインター（矢印）の動かし方を、先生方にお手伝いいただいて学びました。単眼鏡を使うので、その視野から外れないように、一定の微速で動かすこと、矢印の向きに合わせ動かすことなどを約束しました。

説明の用語についても洗い直しました。視覚的な表現を用いないということは、解説に使用することばについてもあてはまると、うかつにも後で気づいたのでした。自分が日常用いる比喩のほとんどが視覚的な表現になっていることを痛感しました。

視覚の障がいもさまざまで、多少なりとも視力がある児童は、月という顕著な天体ならば視認できる場合があります。そうした天体を宇宙へのアプローチに用いることが有効ということもわかりました。

今回の取り組みは、子どもたちだけでなく、当館にとっても、自分自身を見つめ直し、ノウハウを磨くよい機会とさせていただいたわけです。

宇宙連詩は、いろいろな可能性を秘めていることを強く感じます。入館者数や、事業実績に目が向けられがちですが、それよりも、こうした試みをプラネタリウムの可能性の発見の機会としていただくことを祈念します。

